

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-122462

(43)公開日 平成6年(1994)5月6日

(51)Int.Cl.⁵
B 6 5 D 41/02

識別記号 庁内整理番号
D 8407-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平4-290898

(22)出願日 平成4年(1992)10月6日

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72)発明者 石川 浩二

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

(72)発明者 反保 雅博

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

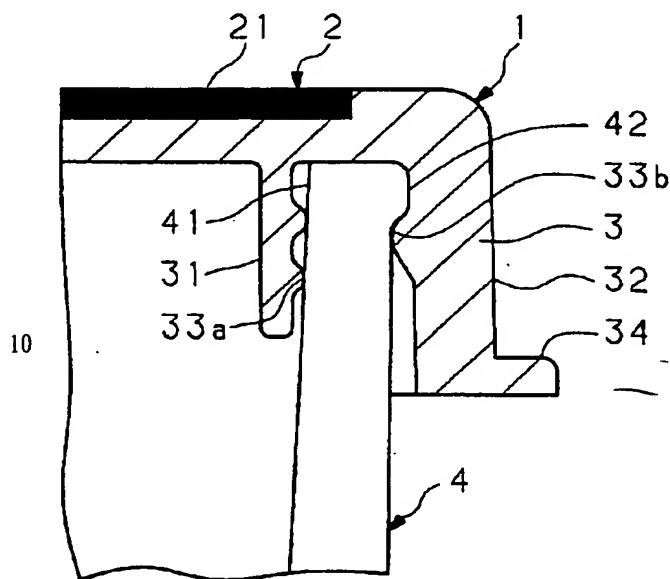
(74)代理人 弁理士 小西 淳美

(54)【発明の名称】 密閉キャップ

(57)【要約】

【目的】 合成樹脂製のキャップにおいてバリーヤー性に優れるとともに印刷による装飾も可能な密閉キャップを提供する。

【構成】 容器口部41の内側と接する突条部31と容器口部41の外向きの出っ張り42に嵌合係止する突起33bが設けられた外周部32と水平天面部21を有する合成樹脂部材3と、前記水平天面部21に突条部31の内周よりも全周に渡って外径の大きな金属部材2を設けたことを特徴とする。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 容器口部内側と接する突条部と、該容器口部の外向きの出っ張りに嵌合係止する突起が設けられた外周部と、水平天面部を有する合成樹脂製密閉キャップにおいて、前記水平天面部に前記突条部の内周よりも全周にわたって外径の大きな金属部材を設けたことを特徴とする密閉キャップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ガラス等からなる容器の蓋として使用される密閉キャップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の密閉キャップとして、ビン容器との係合手段に嵌込み式の形態を採るものがあり、材質としては金属製や合成樹脂製のものが一般的に使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記した嵌込み式の密閉キャップのうち金属製のものは、バリエーション性にとともに天面に適宜の印刷を施せる点で意匠性に優れるという利点はあるものの、開封操作はキャップの一部を引き裂いて行うことから破断部分で怪我をする恐れがあり、また一旦開封してしまうと再び蓋が出来ないといった問題点がある。一方、合成樹脂製のものは、ある程度の弾性があるので嵌め外しが可能ではあるが、バリエーション性に乏しく、また意匠性を付与することが容易でないという問題点がある。

【0004】本発明は、上記のような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、バリエーション性及び意匠性に優れた密閉キャップを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するための本発明の密閉キャップは、容器口部内側と接する突条部と、該容器口部の外向きの出っ張りに嵌合係止する突起が設けられた外周部と、水平天面部を有する合成樹脂製密閉キャップにおいて、前記水平天面部に、前記突条部の内周よりも全周にわたって外径の大きな金属部材を設けたことを特徴としている。

【0006】

【作用】上述の構成からなる密閉キャップでは、ビン容器に蓋をしたときに金属部材がビン容器の口部を覆って高いバリエーション性を付与する役目を果たす。また、合成樹脂部材の突起部分がビン容器の口部の両側から嵌合し密封性を高めるように作用する。

【0007】

【実施例】以下、実施例について図面を参照して説明する。

【0008】図1は本発明に係わる密閉キャップを取り

2

付けたビン容器を示す半断面図、図2は密閉キャップの上面図、図3は図1の一部拡大断面図であり、これらの図からわかるように、密閉キャップ1は、金属部材2とこの金属部材2と一体成型された合成樹脂部材3とで構成されている。

【0009】金属部材2は、例えば厚さ0.1～0.5mmのアルミ板を所定の形状に打ち抜いて形成されるもので、その外周は全周にわたって突条部31の内周より大きく施されている。又金属部材2としては0.1mm以下のアルミ箔を用いてもよい。なお、材質としてはアルミ以外の金属、例えば鉄等を使用してもよい。また、金属製であることから天面に予め適宜の印刷を施しておくことが出来る。

【0010】合成樹脂部材3は、金属部材2と一体的に取り付けられており、ビン容器4と接する側に突起33aをもつ突条部31と、内側にビン容器4に於ける口部41の外向きの出っ張り42に嵌合係止する突起33b及び開封用の突片34を下端の外側に有した形状をしている。

【0011】この合成樹脂部材3は、金属部材2を金型内にセットし、インサート成型により合成樹脂を金属部材2の周囲に一体成型する事で金属部材2に一体的に取り付けられる。なお取り付け方法としては接着剤を用いて貼付けてもよい。ここで、合成樹脂部材3の材質としては、ポリエチレン、ポリプロピレン等の軟質樹脂を使用する。

【0012】上記の密閉キャップ1は、ビン容器4内に液体等の内容物を充填したあとでビン容器4の口部41に嵌合固定される。この場合、キャップ1を押し込むことにより外周部32の突起33bがビン容器4における口部41の外向きの出っ張り42を乗り越えて係合し、突条部31の突起33aとでビン口部41を挟む形になる。その時突起33aがビン容器4の内側を押圧することになり、突起33a部分にて密着した状態となってビン容器4がキャップ1により密閉される。そして、キャップ1の外側をシュリンク包装で密封して販売形態とする。開封するに際しては、このシュリンク包装を剥がしたあと、合成樹脂部材3の突片34を押し上げて突起33bとビン容器4の出っ張り42と突条部31の係合を解くようにする。また、開封後は脱着可能なキャップとして使用できる。

【0013】

【発明の効果】以上説明したように容器口部内側と接する突条部と、該容器口部の外向きの出っ張りに嵌合係止する突起が設けられた外周部と、水平天面部を有する合成樹脂製密閉キャップにおいて、前記水平天面部に、前記突条部の内周よりも全周にわたって外径の大きな金属部材を設けるように構成されているので、開封操作時に金属端面で怪我をすることがなく、しかも再封可能でありながら、この密閉キャップによりビン容器に蓋をした

3

ときに金属部材が口部を覆って優れたバリヤー性を得ることが出来る上に、金属部材の天面に印刷を施すことにより意匠性を有することが出来るという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係わる密閉キャップを取り付けたピン容器を示す半断面図である。

【図2】密閉キャップの上面図である。

【図3】図1の一部拡大断面図である。

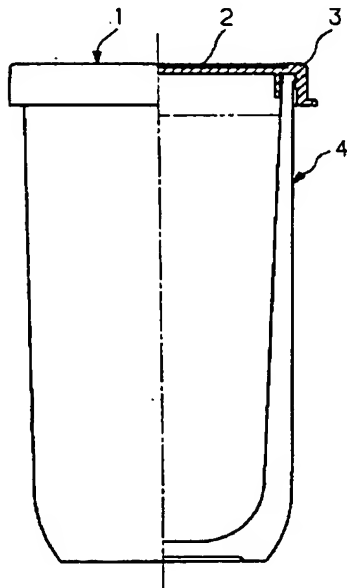
【符号の説明】

1 密閉キャップ
2 金属部材

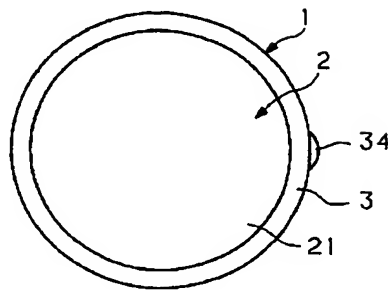
21 天面
3 合成樹脂部材
31 突条部
32 外周部
33a 突条部突起
33b 外周部突起
34 突片
4 ピン容器
41 口部
42 出っ張り

10

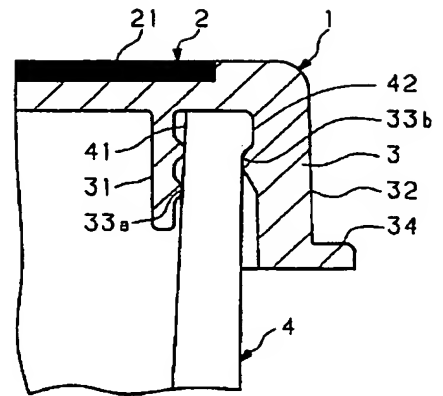
【図1】



【図2】



【図3】



BEST AVAILABLE COPY